

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社EDUCOM

【ツール名】

スクールライフノート

【ツールの機能分類】

発見的な学び

2022年2月



日々の可視化



朝や帰りに今の気持ちを
天気にも例えて登録

振り返り・気づき



日々の情報を子どもが
客観的に振り返り

変化の見守り



先生が子どもの心情
変化を簡単に把握可能

早期発見・対応



支援が必要な子どもの
早期発見と指導

スクールライフノート (心と学びの記録・振り返り支援システム)

かんたん操作で毎日登録 一人ひとりの元気を可視化

心の天気

児童生徒が毎日の気持ちを天気に加え、「心の天気」として入力。児童生徒が発する心のサインを読み取り、気になる児童生徒の天気を過去にさかのぼって確認することで、細やかかつ迅速なケアにつなげることができます。

- 1 気持ちを天気に加えて登録
- 2 パッと手元でわかる
- 3 心の変化やサインを発見
- 4 指導・支援につながる

“もっと元気になる”サイクル

導入校での活用例

- 児童生徒への声掛け後押しに
- 児童生徒との会話のきっかけ作りに
- 不登校傾向の早期発見に
- 学校・学校経営のパロメーターに

メモ帳活用で

「コミュニケーションツール」「振り返りツール」に

児童生徒は天気を登録する際にひとことメモを入力できます。「メモ欄に好きな動物を書いてみよう」「今、はまっていることを書こう」など、メモ欄への入力を促すことで、普段あまり積極的に関わってこない児童生徒への理解が深まったり、会話のきっかけ作りになります。また、学校行事や部活動の振り返りをメモ欄に入力することで「振り返りツール」として活用いただいています。

授業での 自らの学びを可視化

学びの天気

児童生徒が授業ごとに自らの学びを天気に加え、「学びの天気」として入力。各授業ごとの児童生徒の学びをひとめで把握することができ、個に応じた支援・指導だけでなく、授業の組み立てにお役立ていただけます。

- 1 一人ひとりの学びの振り返りを可視化
- 2 天気と振り返りから児童生徒の学びの様子をつかむ

児童生徒が各授業での学びの振り返りを天気登録。各授業ごとにグラフで天気の割合を確認できます。

朝	HR	1 数学	2 国語	3 理科
晴	晴	晴	晴	晴
雨	雨	雨	雨	雨

今日は1時間目(数学)の「あめ」マークが多い

「あめ」や「かみなり」マークから、児童生徒が扱った「振り返り」やこれまでの傾向をもとに理由にアプローチ。次時の授業づくりのヒントとしてご利用いただけます。

ペアでの話し合いで考えを深めた子どもが増えてきたようだ。もう少しペアでの話し合いを増やしてみよう。

授業者から

子どもと先生がつながるための1つとして

「スクールライフノート」導入校の先生方から、「子どもたちの心がよくなるようになった」「自分から話をしない子どもの内面がわかり、こちらから声をかけることが多くなった」「心の天気の変化が子どもとコミュニケーションをうまくしている」「子ども自身が自分自身を見つめる機会にもなっていて、こうした機能は今までなかったので貴重」「心の天気入力、一人一台端末の日常活用に無理なく取り組んで満足！」など、多くの活用の声が私のところまで届いています。授業者として、大変嬉しい限りです。

特長

- ・教科に縛られず学校生活全体で活用できる
- ・非認知能力を向上させ「学びに向かう力」を育成

活用場面

- ・朝の「心の天気」登録で日々の端末活用のきっかけ作りに
- ・授業の振り返り登録で学びの記録を蓄積
日常的なキーボード操作練習の機会も創出

効果

- ・天気から気持ちの変化が見える化するので、変化に合わせた声かけなどに活用できる
- ・天気や振り返りから、自分を客観視しコントロールする力（非認知能力）を向上させて、「学びに向かう力」を育む

利用環境

Webアプリケーション (3OSすべてに対応)

利用料

- ・児童生徒1人 月額180円 (税抜)

■ 学校等教育機関の抱える課題

想定される学校が抱える課題

- ・ 1人1台端末を日常的に活用できていない
- ・ 児童生徒の気持ちや授業の反応を収集できていない
- ・ 学びに向かう力育成の良い手立てがわからない



スクールライフノートの特長

- ・ 朝、帰りの活用で毎日の端末活用に貢献
- ・ かんたん操作で小学校低学年でもすぐ利用可能
- ・ 心の天気で気持ちの変化に応じた声かけができる
- ・ 学びの天気で学びの様子が把握し授業改善に活用
- ・ 振り返りから自己を客観視するメタ認知を育成



かんたん操作と
毎日利用で
端末活用を促進

心/学びの天気・振り返り
が生徒指導や教科指導
の新たな基礎情報に

振り返りを軸にした
学びに向かう力の
育成

○利用校における活用事例

・心の天気

朝の会・帰りの会で「朝」「帰り」の「心の天気」を登録

- 多くの学校が朝・帰りの準備ができたなら端末を自分で起動して登録する
低学年は「グループログイン」を使って教師用端末から登録するクラスも
朝の天気登録後は端末を保管庫に戻さず、そのまま授業に利用するケースが多い



・学びの天気、学習ノート（振り返り）

授業終盤のまとめ後にその授業の天気と振り返りを登録する

- 振り返りは低学年は筆記入力、中学年以降はキーボード入力に登録している
時間がない場合は天気の登録のみ、文字入力が難しい場合はノートに書かせるなど
状況に合わせた運用も見られた



多くの学校で、朝・帰りの「心の天気」の登録をきっかけにシステムを活用

○具体的な活用事例・エピソード

事例① 校内で足並みをそろえて活用、端末の日常的な活用が拡大

毎朝のルーティンに「心の天気」を追加、毎朝1人1台端末が確実に使われるように。

そこから授業での端末活用も少しずつ増加し、「心の天気」が端末活用のきっかけになった。

事例② 子どもの気持ちをとらえやすくなり、より変化をとらえた声かけができた

見た目では気づかなかった子どもの内面を天気から知ることができた。「雨」が続いた子どもに声かけを

したところ、子どものトラブルに未然に察知でき、早期対応ができた。

事例③ 天気が校内の共通言語に、担任・保健室・管理職で子どもたちを見守る取組が強化

天気を話題にした会話が多くなり、「そういえば心の天気雨だったな。少し話聞いてあげて。」などの

情報共有で、保健室来室の手がかりがわかるようになり子どもへの声かけもしやすくなった。

事例④ 分散登校時の家庭での様子や不登校傾向の子どもの様子を把握することができた

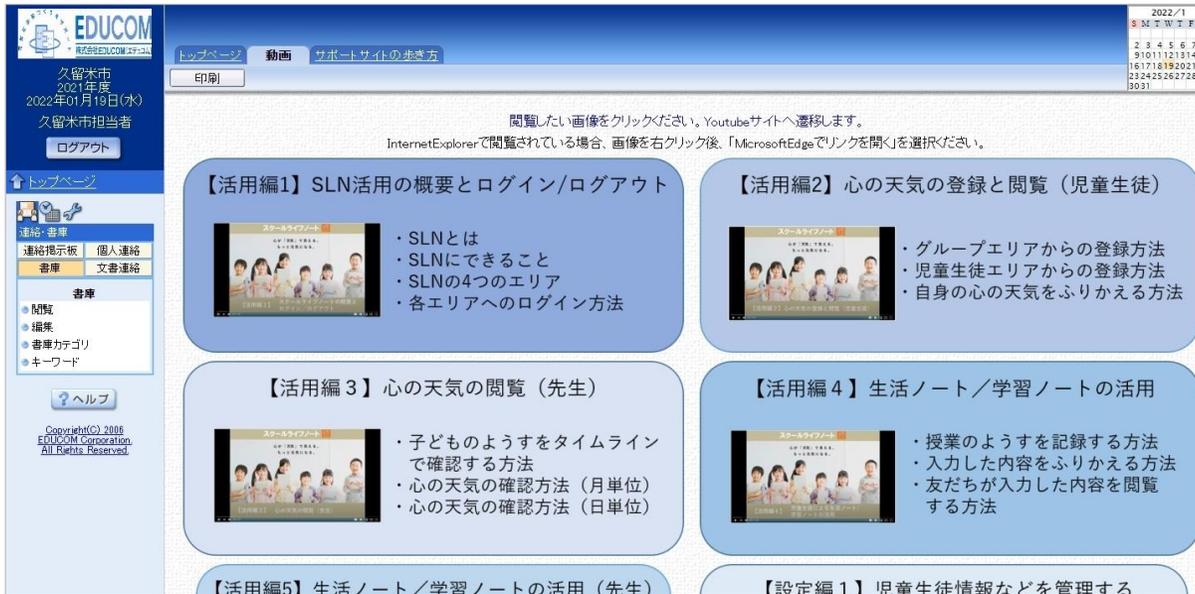
端末持ち帰り家で入力した天気や振り返りから学校に来ていないときの様子を把握することができた。

「心の天気」の情報が、子どもの気持ちを理解するツールになっている、という反響が多くあります

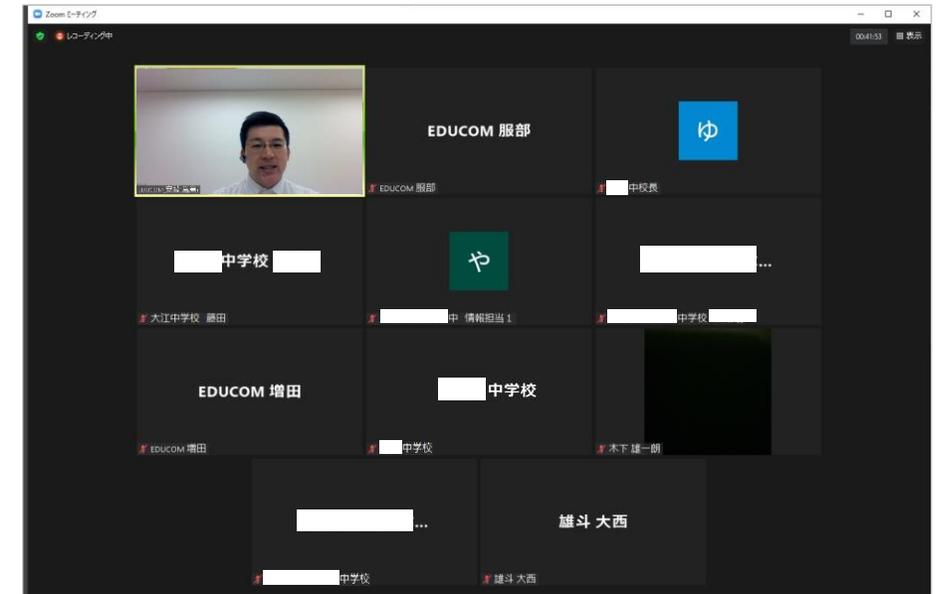
■ 補助事業において実施したサポート内容

○実施したサポート内容 (・：通常のサポート、★：EdTech特別の対応)

- ・ 初期設定支援 教職員情報および児童生徒情報の登録や各種初期設定作業
- ・ 教職員向けヘルプデスク コールセンターによるシステムの操作や活用方法の問合せ対応
- ★ サポートサイト開設 研修動画や操作マニュアル、活用事例資料等の提供
- ・ 学校向け導入ガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有 (オンライン研修・各校1回)
- ・ 教育委員会向けガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有 (オンライン研修・自治体1回)



サポートサイト (動画マニュアル部分)



学校向けガイダンス (オンライン)

※サポート体制 主担当2名・自治体担当9名、電話問合せは弊社ヘルプデスク (平日9~18時) にて受付および対応

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

都道府県	自治体・学校法人名	学校数	備考
愛知県	一宮市	61校（小学校42校・中学校19校）	自治体全校導入
三重県	鈴鹿市	40校（小学校30校・中学校10校）	自治体全校導入
新潟県	南魚沼市	22校（小学校17校・中学校5校）	自治体全校導入
愛知県	江南市	15校（小学校10校・中学校5校）	自治体全校導入
福岡県	大野城市	15校（小学校10校・中学校5校）	自治体全校導入
三重県	松阪市	12校（小学校9校・中学校3校）	
長野県	大町市	10校（小学校6校・中学校4校）	自治体全校導入
長野県	喬木村	3校（小学校2校・中学校1校）	自治体全校導入
福岡県	久留米市	3校（小学校2校・中学校1校）	
東京都	武蔵村山市	2校（小学校1校・中学校1校）	自治体全校導入
広島県	福山市	1校（小学校1校）	
鹿児島県	池田学園	1校（小学校1校）	
11自治体・1法人		185校（小学校42校・中学校19校）	

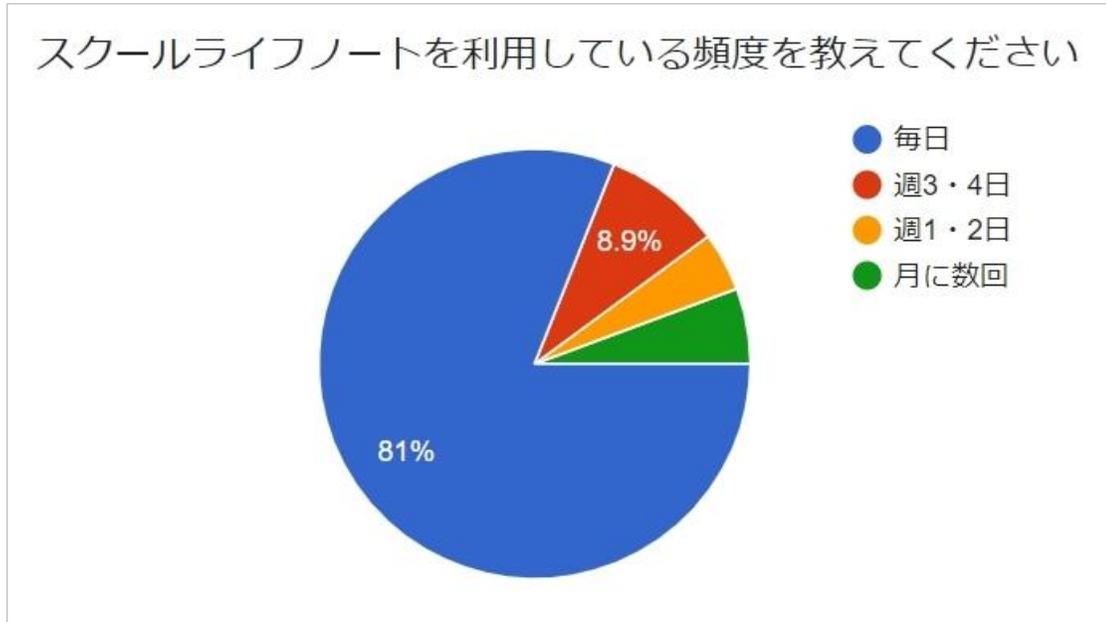
■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

○実証全体の活用状況

- ・自治体および団体における活用率：**83.3%**（12自治体および団体中、10か所が活用中）
- ・各種「天気」の登録件数：**121,675件**（2021年12月の1ヶ月間の合計）

○実施アンケートの結果（総回答数429件）

- ・約90%の利用者が毎週3日以上で利用



- ・利用して感じた変化（複数回答・一部を抜粋）

子どもの**気持ちの変化**をよりとらえやすくなった **63.3%**

子どもの**天気**が**日常の声かけ**につながった **60.8%**

教員間で**子どもの天気・振り返り**を**話題**にした会話ができるようになった **20.9%**

子どもとの**コミュニケーション**が増えた **16.5%**

○スクールライフノートの活用効果

効果① 心の天気が1人1台端末の日常的な活用のきっかけに

活用アンケートの回答では、約85%の学校が1人1台端末を週3日以上端末を活用しており、心の天気の利用により毎朝確実に1人1台端末が保管庫から出て起動するようになり、そこから授業での端末活用につながっていることが推察できる。

<活用アンケート「1人1台端末の活用状況」の回答結果>

<活用アンケート「活用エピソード」欄の回答（一部抜粋）>

スクールライフノートを利用している学校



朝タブレット端末を開く習慣づけに役立った。

コメントを入れるので、タイピング能力が上がった。天気とコメントが子どもとの会話のきっかけになっている。

子どもたちが、パソコンに親しんで使えるようになりました。

○スクールライフノートの活用効果

効果② 天気が児童生徒の気持ちを把握する手段に

天気の情報から子どもたちの日々の気持ちが把握でき、子どもたちの気持ちの変化を読み取ることができるようになった。それにより、気持ちが変わったタイミングでの声かけや天気を話題にしたコミュニケーションの増加により、これまで以上に児童生徒の気持ちの変化を踏まえた指導・対応ができるようになった。

<活用アンケート内の「活用エピソード」欄の回答（一部抜粋）>

日頃の言動だけでは、子どもたちの小さなサインに気づききれないことがあった。天気の変化や何気ないコメントにより、子どもたちとの関わるヒントとなった。

普段、自分からはあまり話しかけてこない児童と、コミュニケーションを取りやすくなった。子どもたちの嬉しいと感じることや嫌だと感じることが捉えやすくなった。

児童の心の変化を察知し、児童理解につながった。一つのツールとして活用している。

子供同士のトラブルを早期発見することができた。

○スクールライフノートの活用効果

効果③ 教職員間の「共通言語」化

スクールライフノートの天気や振り返りを話題にした会話が増えるとともに、子どもが登録した天気を情報共有して連携を図るなど天気や振り返りが学校の中での「共通言語」となり、これまで以上に「みんなで子どもを見守る」意識が高まった。

<活用アンケート内の「活用エピソード」欄の回答（一部抜粋）>

担任との情報共有で、「そう言えば心の天気雨だったな。少し話聞いてあげて。」というように、保健室来室の手がかりになる会話が増えた。

心の天気の記録から教育相談につなげることができ、よかった。

交流での学習の感想を読むと交流の様子がよくわかります。学習の振り返りでつまづいているところなどもよくわかり、指導にいかせました。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

○教員からのコメントや感想（活用アンケートから抜粋）

普段教師に話しかけることの少ない児童の心の内がわかる。

普段、自分からはあまり話しかけてこない児童と、コミュニケーションを取りやすくなった。

子どもたちの嬉しいと感じることや嫌だと感じることが捉えやすくなった。

表情が暗い児童の心について、聞くきっかけになった。

日頃の言動だけでは、子どもたちの小さなサインに気づききれないことがあった。天気の変化や何気ないコメントにより、子どもたちとの関わるヒントとなった。

登校後の天気とコメントを見て、家庭の様子を聞くきっかけになっている。

天気のマークがあることで、話しかけやすくなった。

不登校傾向児童の「心の天気」は、とくにその変化に留意することでサインを見逃さない構えができる。コロナ禍で教室に足が向かないでいる児童の心に寄り添う上でも効果的である。

朝夕で気持ち上がる児童の様子を見て、教師の指導も振り返ることができるのに役立つ

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

○教員からのコメントや感想（活用アンケートから抜粋）

普段話せない子どもたちが容易にコメントを残せるようになった。

気持ちを反映している部分がある。

気になる天気の子には声がけし、朝の様子を詳しく把握することができるようになった。

家庭や学校で何かトラブルや悩みがある生徒を見取ることができるようになった

下校時、トラブルを抱えたまま下校させることが減った

トラブルを未然に察知できた。声かけをしやすくなった。

その日の子供の心理について個人的に話しかけることができている

その時の生徒の気持ちが言葉ではない形で一目で分かったこと

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

○教員からのコメントや感想（活用アンケートから抜粋）

心の天気を見ることによって、気になる児童の心の動きが見えて良い

心の天気を活用し、学校に登校できていない児童の様子も知ることができた。

心の天気の記録から教育相談につなげることができ、よかった。

場面緘黙の児童や、言葉の表現が苦手な児童でも、心の天気を選ぶことで、気持ちを表現することができ、日常の指導にも役に立った。

児童の心の変化を察知し、児童理解につながった。一つのツールとして活用している。

児童に声をかけるきっかけとなった。

児童たちの朝の心の天気を確認することで、どんな気持ちで学校に来ているのかが分かり、話を聞くことでその子のことが分かることがあるのでありがたい。

子供同士のトラブルを早期発見することができた。

○システム活用における課題

課題① 「振り返り」を意識した活用が進まなかった

「心の天気」による気持ちの理解とそれを活かした声かけは導入校のほとんどで取組の定着が見られたが、「学びの天気」および「振り返り」を活用した「学びの向かう力」につながる取組を実証期間中に取組んだ学校・クラスは少なかった。

アンケートでは、そもそも「学びに向かう力」育成につながる取組に理解が乏しかった、年間を通した長期的な指導が必要のため年度途中から取り組むのが難しかった、という声が見られた。

課題① 改善策

・「学びに向かう力」につながる活用方法の積極的な紹介

→ 活用イメージが湧きにくい部分を払しょくするため、気持ちの理解だけでなく「学びに向かう力」につながる取組にも活用できることを積極的にアピールしていく

・学年や発育段階に応じた具体的な活用モデルの確立

→ 「学びに向かう力」育成につながる取組例を活用モデルとして提示し、具体的にどのように取組を行えば「学びに向かう力」育成につながるのかをイメージしやすくする。あわせて、学年や子どもたちの状態に合わせた段階設定を行うことで、年度途中からの取組でも子どもたちの様態に合わせて活用してもらえようとする

○システム活用における課題

課題② 年度途中からの運用開始による弊害

「心の天気」の活用場面である朝の会・帰りの会について、年度途中からの実施となったことでクラスで年度当初に設定している流れやルールを変更する必要がある、一部の教員から「年度途中から急に取組を変えていくことで子どもたちに負担がかかってしまう」という声が聞かれ、利用に消極的な学校・クラスがあった。

特に、小学校低学年は新しい流れやルールを定着させることに時間がかかる側面があるためである。

課題② 改善策

・年度開始からより早いタイミングで導入・稼働できる事業スケジュールにさせていただく

- 5～6月中に利用開始できるようになれば、学校での活用開始のハードルも下がる
- さらに、ほぼ年間を通じての利用になるため現場の効果実感など満足度も高くなる

・「心の天気」の朝の会での利用方法をまとめた「導入サポートプラン」を提示する

- 子どもへの説明方法や登録作業の設定の仕方などの成功事例にもとづくプランを提示することで導入開始時の負担感を軽減させる

○システム活用における課題

課題③ システムの価値や効果の利用者全体への伝達

利用してシステムの価値や効果に気づいてさらに活用していただける学校・先生もいる中で、なかなか価値や効果が伝わらなかった先生や学校では利用が進まないケースが見られた。アンケートでも「活用のイメージがわきにくい」「子どもたちにどう声かけしていいか困る」といった声も一部から挙がっており、システムの価値や効果を広く理解してもらえるような動きがもっと必要だった。

課題③ 改善策

・活用効果がわかる事例資料の充実

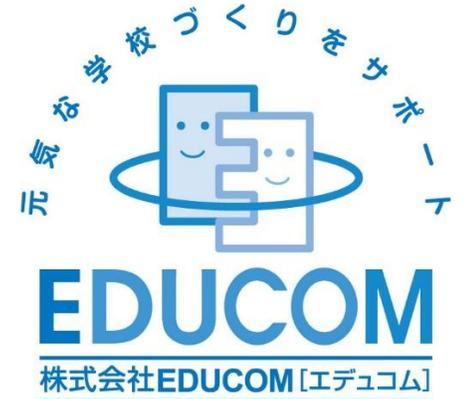
→ 利用自治体で効果を得ている活用事例をさらに準備し、より多くの情報を伝えられるように拡散にも力を入れるあわせて、活用校の先生方の事例インタビュー動画などの動画コンテンツも数を増やして提供できるようにする

・声かけ等の具体的な取組例を含めて活用プランの提示

→ 活用校の実践事例を参考にして「利用→確認→指導」の一連の流れをまとめた活用プランを作成し、「どう使っているか」とお困りの先生方がスムーズに使っていただけるようなサポートを行う

■ 会社概要

- ・会社名 株式会社EDUCOM
- ・代表者 柳瀬 貴夫 代表取締役CEO（最高経営責任者）
- ・所在地 愛知本社 愛知県春日井市如意申町7-7-5
東京本社 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
- ・創業 1989（平成元）年4月
- ・資本金 3300万円
- ・従業員数 257名（2021年7月時点）
- ・事業内容
 - 1 パーソナルコンピューター通信、情報通信システムの設計、企画、施工
 - 2 コンピューターとその関連機器及びソフトウェアの開発、販売並びに情報処理・提供に関する事業
 - 3 パーソナルコンピューターのソフトウェアの保守、管理並びに技術の指導業務
 - 4 コンピューター技術教室、文化教室の経営
 - 5 コンピューターのプログラムの作成
 - 6 コンピューターのソフトウェア設計・プログラム開発及び技術提供並びに保守に関する業務
 - 7 地図データベース、その他データベースの作成・販売、コンピューターによる処理業務
 - 8 コンピューターシステムを利用した情報ネットワークによる情報処理並びに情報提供業務
 - 9 上記各号に付帯関連する一切の業務
- ・ホームページ <https://www.educom.co.jp/>
- ・問い合わせ先 会社ホームページ上部「資料請求」の問合せフォームよりご連絡ください



○補助金活用の成果

①サポート内容など製品提供における各種内容精査が行えた

製品リリース2年目の製品のためサポートなど手探りの部分がある中、本補助金事業をサポート内容を精査する機会として位置づけ、これまで検討していた新しいサポートを提供して現場の反応を聞く良い機会になった。

あわせて、学校へのアンケートでシステムおよびサポートの不満点を収集することができ、その情報をもとにサポート内容をより良いものに改善していく有益な情報を得ることができた。

②これまで製品提供の無い自治体・学校との接点を作ることができた

弊社製品を全くご利用していない自治体・学校で製品を使ってもらうことができ、新たな自治体・学校との出会いになった。好感触をいただいている自治体・学校もあり、今後の継続利用や予算化に向けた働きかけを続けていきたいと考えている。